

## 「不登校は待てば解決する問題ではない」——現場からの声

「もう半年になります。学校に行けなくなってから、毎朝泣きながら起き、午後は布団から出られない日もあります。相談はしましたが、支援は『様子を見ましょう』だけで、具体的な提案はありませんでした」——ある保護者の声です。

私たちは、不登校やひきこもりの支援現場で日々、こうした切実な声を耳にします。不登校は時間が経てば解決するものではありません。むしろ、支援が遅れるほど、本人の孤立感は深まり、学校や社会への距離が広がっていきます。

今年度、私たちの法人は福祉医療機構（WAM）の助成を受け、不登校やひきこもりの初期段階から家庭に訪問し、伴走型の支援を行う事業を始めました。私たちが目指すのは、学校と地域、そして家族をつなぎ、「早期に」「切れ目なく」支援を届けることです。

ところが、現状では学校から地域の支援団体へつながるルートがまだ細く、多くの家庭は孤立したままです。本人や保護者がSOSを出しても、制度や仕組みの隙間に落ちてしまうケースが後を絶ちません。

だからこそ、教育委員会と学校、不登校に関わる行政の担当課、そして私たちのような地域のNPO法人や支援団体が、もっと早く、もっと密接に連携する必要があります。初期の段階で支援が入れば、子どもは学校や社会に戻るためのエネルギーを失わずに済みます。

教育委員会の不登校担当部門と私たちの事業を学校現場と結びつけ、不登校児やその家族が孤立しない地域のネットワークを共に築いていただきたいのです。

子どもたちが未来への扉を閉ざしてしまう前に、今、動く必要があります。現場からの声を、どうか受け止めてください。

今回の WAM 助成事業のプロジェクトの目的は、早期発見・早期支援・早期回復を願い、助成事業としてプランを立てる。

今回の助成事業の不登校に関しての現状と WAM 助成事業支援内容。

### 1. 現状と課題

- ・ 宮崎県内の不登校児童生徒数：約 3,000 人（宮崎市：約 1,000 人）
- ・ 多くの家庭が「相談はしたが、具体的な支援につながらない」状態
- ・ 支援が遅れると、孤立や学びからの断絶が長期化して家族が疲弊
- ・ 学校現場だけで抱えきれないケースが増加中

### 2. 早期支援の必要性

- ・ 初期段階で訪問型の伴走支援を行うと、復学や社会参加の可能性が高まる
- ・ 不登校やひきこもりの初期の支援によって長期化を避ける
- ・ 長期化によって二次障害としての精神疾患の罹患を食い止める
- ・ 保護者の不安や孤立感が軽減され、家庭関係の悪化を防止する
- ・ 家族の長期にわたる経済的・精神的な負担による疲弊を軽減する
- ・ 学校復帰だけでなく、在宅学習・地域活動など多様な選択肢へ橋渡し可能

### 3. WAM 助成事業の特徴

- ・ 福祉医療機構（WAM）の助成により、今年度より訪問看護師に有償での支援事業開始する
- ・ 訪問支援を軸に、学校・家庭・地域をつなぐ「初期介入モデル」を構築
- ・ 制度の空白になりやすい初期段階に焦点を当て、切れ目のない支援を実現
- ・ 今回のプロジェクトに賛同・協賛頂いた、訪問看護ステーションの看護師の特徴やスキルを活かして訪問型の伴走支援を継続的に実施して、傾聴を基本に家族や子供に対しての生活支援や地域の支援機関の情報提供、緊急の場合に医療支援ができることも訪問看護師の持っているスキルで、医療支援のみでなく家族に包括的な支援を提供できることが最大の特徴です。